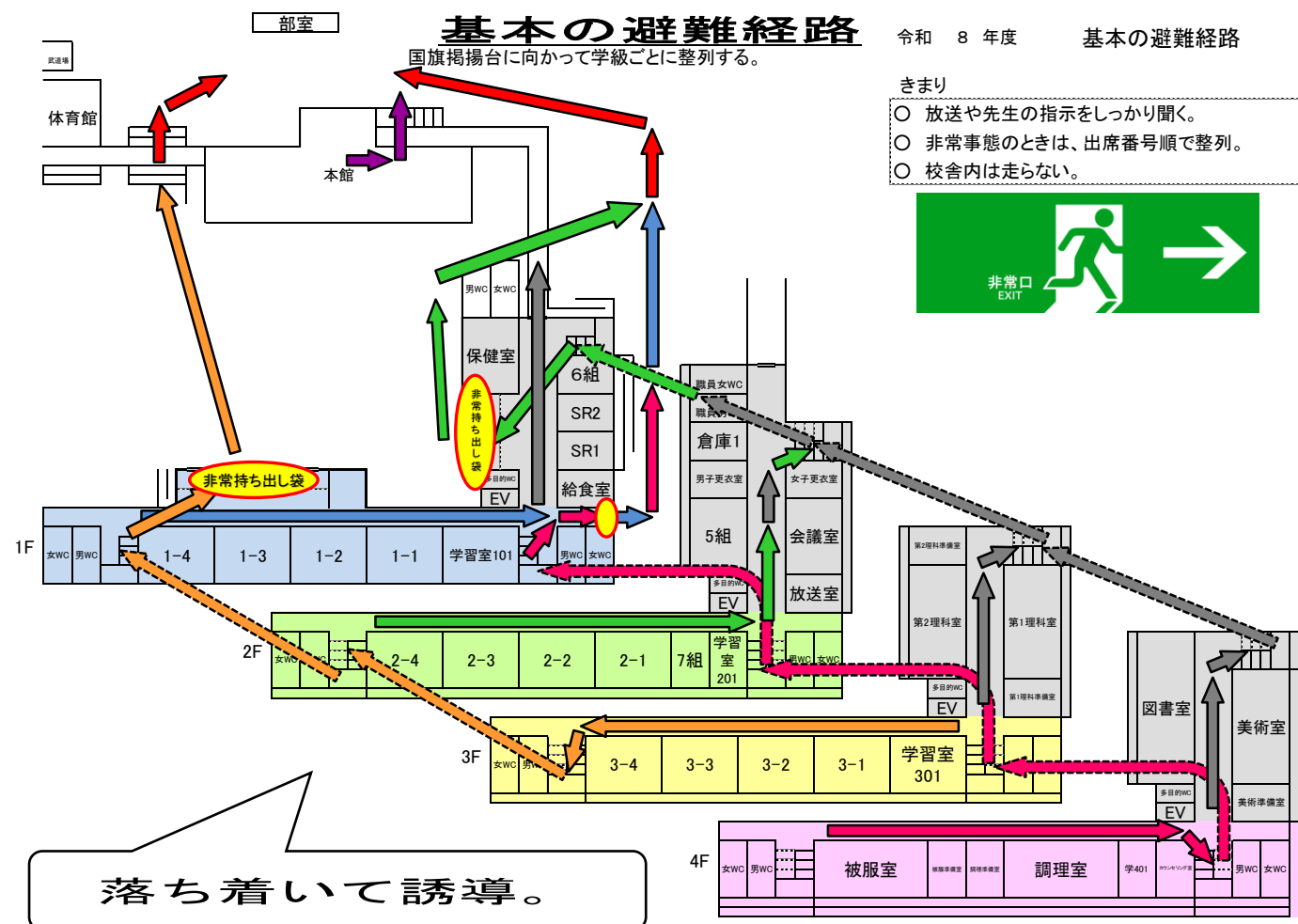
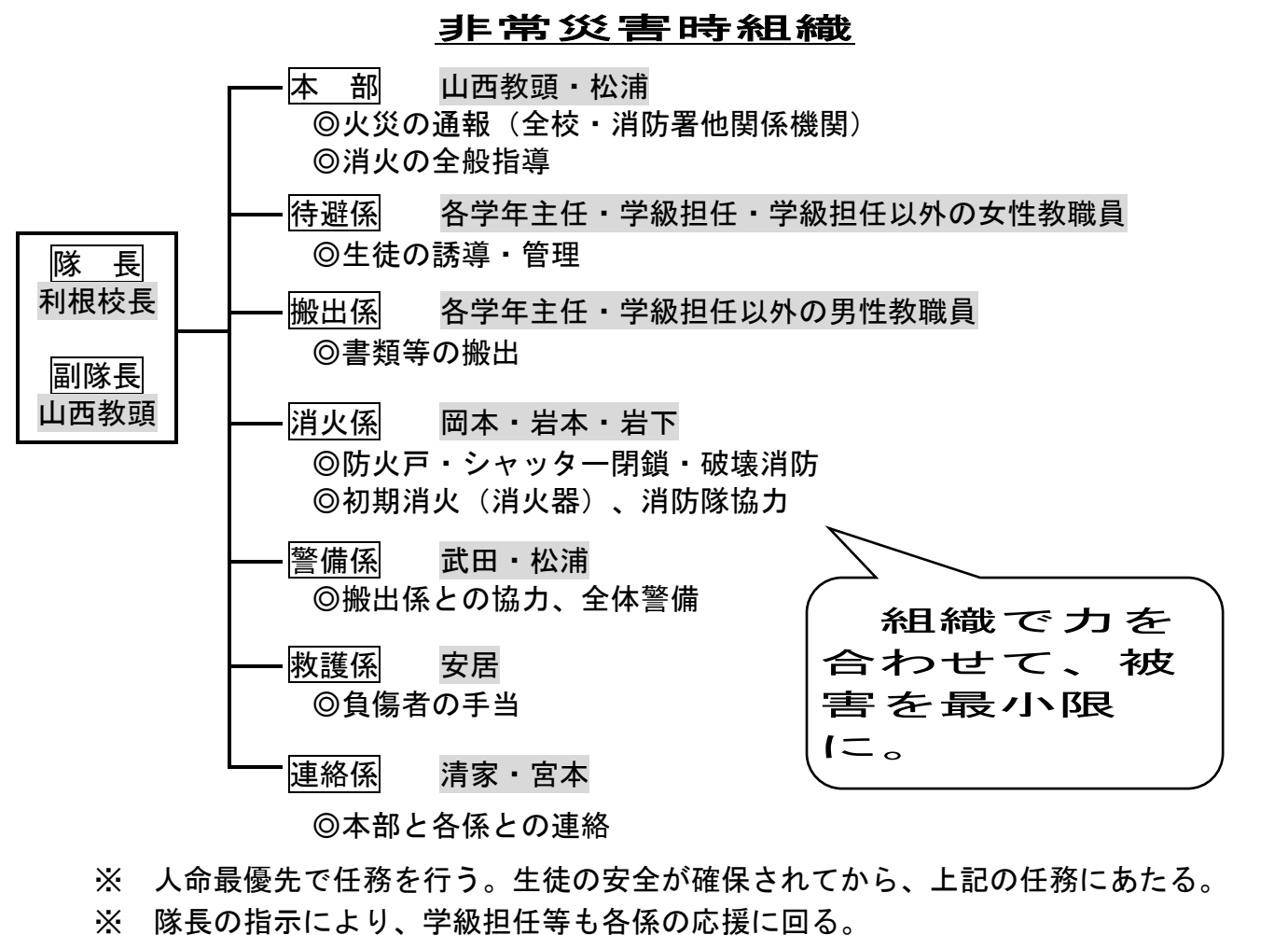




避難時には、出席簿とこのマニュアルを持参する。

令和 8 年度 宇和島市立城東中学校

危機管理マニュアル

（教室備付用）

救急搬送の要請はためらわず、周囲で速やかに判断する

- ### 地震発生
- ◎ **緊急地震速報**が聞こえたら、まず**安全確保** 〈勝手に飛び出さない。〉
- ☆ 緊急地震速報（警報）は、**最大震度が5 弱以上**と予想された場合に発表される。
 - ☆ 南海トラフが震源の場合、緊急地震速報から主要動が来るまでに**20～30 秒**程度ある。
- 「**3 ない**」の場所を確保

 - ※ 可能なら**出口確保**

「上からものが**落ちてこない**」

「横からものが**倒れてこない**」

「ものが**移動してこない**」
- ゆれが発生したら、机の下に隠れてしっかり脚を持たせ、**頭部**を守らせる。
 - ゆれがおさまったら、放送に従って避難開始。（放送不通の場合は指示を待つ。）
 - 授業者は**出席簿**を持ち、**出席番号**順に整列させる。
 - 「基本の避難経路」を用いて避難する。 — **確・速・静** —
- 校舎の倒壊の状況などによって、避難経路は柔軟に変更する。
- 避難場所で整列させたら、**出席簿と照合**しながら生徒を確認する。
誰がいなかを**素早く確認**することが最優先。
 - 学級の生徒が**全員避難**していることが確認できたら、学年主任に報告する。
- 報告経路** 学級担任（授業担当者）→学年主任→教頭→校長
- ※震度 4 以上→委員会へ報告 震度 5 弱以上→管理職参集 震度 5 強→管理職+必要と定める者
- 安否確認を行う（教頭） ← 【主幹、学年主任、生徒指導】 ↑**
- 震度 6 弱以上→全員参集 （校区の通学路の点検を行う）

- ### (大)津波警報発令
- ☆ **大津波警報**:3m を超える「巨大」 **津波警報**:1～3m 「高い」 津波注意報 0.2～1m
 - ☆ 海拔 グラウンド 2.0m、1 階:2.8m、2 階:6.5m、3 階:10.2m、4 階:13.9m、屋上:17.6m
 - ☆ 南海トラフ大地震で想定される津波の高さ 宇和島市最高:**9.5m**、宇和島港:**6.1m**
- 【山の斜面では津波の遡上が起こり、4 倍の高さまでせり上がることがある。】
- ☆ 南海トラフ大地震で想定される津波到達時間 宇和島市:地震発生後 **最大 72 分**
- (大)津波警報が発令されたら校長の指示に従い、
第 2 避難場所に避難する。→浅田組資材置場、古城山
- ※ ただし、状況によっては避難場所が変更になることがある。臨機応変な対応を。
- 「引き渡しカード」をもとに、保護者に生徒を引き渡す。ただし、明らかに津波が襲ってくる場合は、安全が確保されるまで、第 2 避難場所にとどまらせる。
- 津波注意報：部活動中止、三浦生徒は引き渡しを行う。
- 南海トラフ地震臨時情報 巨大地震警戒：**授業中止**、三浦生徒引き渡し



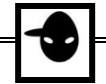
火災発生



- ① 火災が発生したら、近くの教室の教員に応援を頼み、職員室への連絡、初期消火とともに、火災現場からの生徒の退室の指示を迅速に行う。
- ② 職員室にいる教員は、避難指示の放送、119 番通報、消火の応援等を行う。
- ③ 職員室から放送で避難の指示がある。教室の窓を閉める。ハンカチ等を用意させる。
- ④ 授業者は出席簿を持ち、出席番号順に整列させる。
- ⑤ 避難場所で整列させたら、出席簿と照合しながら生徒を確認する。
- ⑥ 学級の生徒が全員避難していることが確認できたら、学年主任に報告する。

報告経路 学級担任（授業担当者）→学年主任→教頭→校長

不審者侵入



- ☆ 教員は日頃から来校者にあいさつをするなど、必ず声を掛ける。不審な人物については、来校の要件を聞き、職員室まで案内する。
- ① 不審者が校内に侵入したら、複数の教員で対応するとともに、職員室へ連絡する。
 - ② 不審者が教室に入ってきたら、授業者は大声を出しながら不審者の静止に努め、生徒を教室外に出させる。近くの教室の教師は不審者の静止の応援、職員室への連絡、周辺教室の生徒への避難等の指示を出す。
 - ③ 職員室にいる教員は、避難指示の放送、110 番通報、体育館の開錠、職員室、事務室、保健室にあるさすまたを持って不審者対応の応援等を行う。
 - ④ 1 階の教室に不審者が侵入した場合は、1 階の教室の生徒は体育館へ避難させる。上の階の教室は内側から鍵をかけて、不審者が侵入できないようにする。2 階以上の教室に不審者が侵入した場合は、その階とその階より下にいる生徒は体育館に避難させる（最短距離でよい）が、その階より上の教室は内側から鍵をかけて、教室内のなるべくベランダ寄り生徒を待機させる。
- 本館や体育館に不審者が侵入した場合は、新校舎の昇降口や出入り口の鍵をかけ、教室内の鍵もかける。生徒が新校舎に避難して来た場合は開ける。

心肺停止



- ① 周囲の安全の確認をする。
- ② 意識の有無を確認する。
- ③ 意識がなければ、近くの教員に 119 番通報、AED の運搬、職員室への連絡を頼む。AED は職員玄関にある。
- ④ 呼吸の有無を確認する。「普段どおりの呼吸」がなければ心肺蘇生を開始する。圧迫のテンポは 1 分間あたり 100-120 回。訓練を受けていない救助者は、胸骨圧迫のみの心肺蘇生法を行う。
- ⑤ 人工呼吸の技術と意思がある場合は、胸骨圧迫 30 回→人工呼吸 2 回を AED 到着まで繰り返す。
- ⑥ AED が到着したら、AED の音声指示に従って操作をする。
- ⑦ 電気ショックの後、AED から心肺蘇生を再開するように音声指示があったら、③の 5 セット→④を救急車が到着するまで繰り返す。

(1)30 回



(2)2 回

迷わず、素早い対応を。

異物混入

- ① 給食に異物混入が確認されたら、学級の生徒全員すぐに食事を止めさせ、混入した現物を保存する。
- ② 異物が混入した食物を食べた生徒の容態を確認し、必要に応じて吐かせる。
- ③ 速やかに校長に報告し、校長の判断で全校生徒の食事を止めさせる放送を入れる。生徒の容態が悪い場合は、119 番通報を入れる。

出血

- ☆ 人の体重の約 1/12 は血液。体重 60kg の人は約 5L の血液が体の中を流れている。
- ☆ 体内の血液の 30%を失うと、生命に危険を及ぼす。（体重 60kg の人で 1.5L）
- ① きれいなガーゼやハンカチをきず口に当て、その上を手で圧迫する。
 - ② 出血の程度によっては、近くの教員に保健室、職員室への連絡を頼む。大量に出血している場合は、119 番通報も頼む。

やけど

- ① 患部をすぐに流水で冷やす。衣類をつけている場合は、無理に脱がさず衣類ごと水で冷やす。
- ② やけどの程度によっては、近くの教員に保健室、職員室への連絡を頼む。範囲が広いやけど、顔面や陰部のやけど、皮膚が真っ白になったり黒く焦げたりしたやけどの場合は、119 番通報も頼む。

熱中症

- ☆ 熱中症には、「日射病」、「熱痙攣」、「熱疲労」がある。
- ☆ 手足の筋肉の痛み、筋肉の硬直、体のだるさ、吐き気、頭痛やめまいなどの症状が現れる。立ちくらみ、頭がボーッとして注意力が散漫になることもある。
- ☆ トンチンカンな言動がみられると危険な状態である。
- ① 風通しのよい日陰やクーラーが効いている涼しい場所に移動させる。
 - ② 近くの教員に保健室、職員室への連絡を頼む。
 - ③ 衣服を脱がせ、うちわや扇風機で風を当てるなどして体を冷やす。氷のうなど準備できれば、首、脇の下、太ももの付け根などに当てる。
 - ④ 発汗により脱水症状になっているので、水分、塩分を補給する。傷病者が飲みたくないと言っても、励まして飲ませる。
 - ⑤ 反応が鈍くなったり、自分の力で水を飲めなかったりすれば、119 番通報をする。

弾道ミサイル発射

- ☆ 弾道ミサイルが発射された場合には、爆風や破片等による危険が想定される。
- ① 屋外にいる場合は、近くの建物の中や地下に避難し、床に伏せて頭部を守る。
 - ② 屋内にいる場合は、できるだけ窓から離れ、床に伏せて頭部を守る。

原子力災害

- ① 第一に屋内退避（屋内退避をすることで、放射線による影響を軽減することができる）。
- ② 窓を閉める。換気扇を止める。顔や手を洗い、うがいをする。衣服を着替える。食品にラップやふたをする。